平成 23 年 3 月

岡山大学薬学部

FD 白書

2010（追補版）

資料 1-1

年度	ＦＤ委員会委員名簿
14	○綿矢有祐、岡本敬の介、片岡洋行、竹内靖雄
15	○岡本敬の介、綿矢有祐、竹内靖雄、中尾浩史
16	○齋藤寛、岡本敬の介、佐々木健二、竹内靖雄、中尾浩史
17	○佐々木健二、齋藤寛、竹内靖雄、中尾浩史
18	○佐々木健二、竹内靖雄、中尾浩史、杉本幸雄
19	○佐々木健二、竹内靖雄、中尾浩史、合葉哲也、杉本幸雄
20	○竹内靖雄、佐々木健二、中尾浩史、合葉哲也、杉本幸雄、榎本秀一（10 月よりオブザーバー)
21	○竹内靖雄、佐々木健二、榎本秀一、中尾浩史、合葉哲也、杉本幸雄、田中　智之（11 月よりオブザーバー)
22	○榎本秀一、佐々木健二、中尾浩史、杉本幸雄、田中智之、表弘志

年度	薬学部学生・教員ＦＤ検討委員会名簿
15	森下健一（１)、山中文（２)、難波卓司（３)、竹内靖雄（FD 委員会)［準備委員会］
16	西川宏（１)、森下健一（２)、山中文（３)、難波卓司（４)、竹内靖雄（FD 委員会)
17	改田祐子（１)、西川宏（２)、森下健一（３)、山中文（４)、中尾浩史（FD 委員会)
18	岡大嗣（１)、改田祐子（２)、西川宏（３)、前畑佑亮（４)、杉本幸雄（FD 委員会)
19	後藤祐子（１)、岡大嗣（２)、改田祐子（３)、西川宏（４)、杉本幸雄（FD 委員会)
20	安藤誠（１)、後藤祐子（２)、清水康正（１)、田中雄大（１)、杉本幸雄（FD 委員会)
21	新居田弦己（１)、餅川友祐（１)、清水康正（２)、田中雄大（２)、杉本幸雄（FD 委員会)
22	井谷光明（１)、平松恵美子（１)、新居田弦己（２)、餅川友祐（２)、杉本幸雄（FD 委員会)

() 内は学年

３−１．シラバス

薬学部のシラバスは、平成 23 年度より全学統一のサイボウズデジエシステムへ移行することとなった。全学システムは学科単位の区分があるため、共通講義についても別にシラバスを作成することになっている。また、薬学科シラバスについては主担当のコアカリキュラム SBOs を明記している。

３−３−１．学生による授業評価

ＦＤ部会学生評価実施担当
杉本幸雄

【平成 21 年度後期開講科目対象アンケート】

今回からＦＤ部会として前回と同様のアンケート内容で，平成 22 年 4 月に１，２，３および薬学科４年生に対して実施した（資料 1)。アンケート結果を集計し，ＦＤ部会で検討した結果，前回（平成 21 年度前期）同様に教員会議提示用資料を作成することにした。すなわち，満足できた授業科目（当該年次全科目の 3 学年全体）の主な理由 6 項目（割合付）および改善すべきと思う授業科目（当該年次全科目の 3 学年全体）の主な理由 5 項目（割合付）を開示した。また，満足できた授業科目について，学年毎に上位 3ー7 科目を開示した（資料 2)。また，教員会議提示用資料の末尾に「本アンケートの詳細は http://www.pharm.okayama-u.ac.jp /com/FD/check/H21Lst_pharm.pdf をご覧ください（薬学部ホームページ → 部内限定 → ・授業評価 → 学部（薬学部版） → 2009L)」の文面を記載し，教員個人の閲覧を促した。

【平成 22 年度前期開講科目対象アンケート】

前回と同様のアンケート内容で，平成 22 年 10 月に１，２，３および薬学科４年生に対して実施した。アンケート結果を集計し，ＦＤ部会で検討した結果，これまで同様に教員会議提示用資料を作成することにした。すなわち，満足できた授業科目（当該年次全科目の 3 学年全体）の主な理由 6 項目（割合付）および改善すべきと思う授業科目（当該年次全科目の 3 学年全体）の主な理由 6 項目（割合付）を開示した。また，満足できた授業科目について，学年毎に上位 6 科目を開示した（資料 3)。また，教員会議提示用資料の末尾に「本アンケートの詳細は、http://pharm.okayama-u.ac.jp/com/FD/check/H22Fst_pharm.pdf をご覧ください（薬学部ホームページ → 学部内専用ページ → ・授業評価 → 学部（薬学部版） → 2010F」の文面を記載し，教員個人の閲覧を促した。

３−３−２．同僚による授業評価

同僚評価トライアル実施報告

ＦＤ部会同僚評価実施担当
中尾浩史

平成２２年度前期の同僚評価トライアルは，ＦＤ委員会委員が評価者を務め，予め担当者から承認を得た授業を参観後，各評価者の意見を収集した評価書に基づいて検討した。前年度に引き続き，トライアル評価の評価は，被評価者にとって，授業改善する意欲・意識が向上できるような評価書を作成できるかという点に主眼を置いた。今年度は新たに 4 名のレビュアーを育成することとし、FD 部会委員がその指導を行った。今回のトライアルの対象は教授の先生方とした。

第 13 回トライアル
対象科目　臨床医薬品治療学 II （黒崎教授担当，4 年次対象）
参観日時　平成 22 年 5-6 月（火２）

第 14 回トライアル
実施科目　衛生薬学 II （三好伸一教授担当，3 年次対象）
参観日時　平成 22 年 6-7 月（金 3）

評価方法　前年度と同じ評価書を使用した。

総括と展望

耐え難きを耐え，忍び難きを忍んでいただいた，4 名の先生方に衷心よりお礼申し上げます。ご回答いただいた「評価書の評価アンケート」から，レビュワー育成の難しさを感じましたので，これらの結果を生かし、後期トライアルではさらなる改善に努めたいと思います。後期も，ご依頼の承認をいただいた授業科目を中心に続けたいと思いますので，よろしくお願いいたします。同僚評価やレビューワーの育成に関するご提案・ご意見があれば，ＦＤ委員会（担当，中尾）にお寄せください。

３−３−３．自己による授業評価

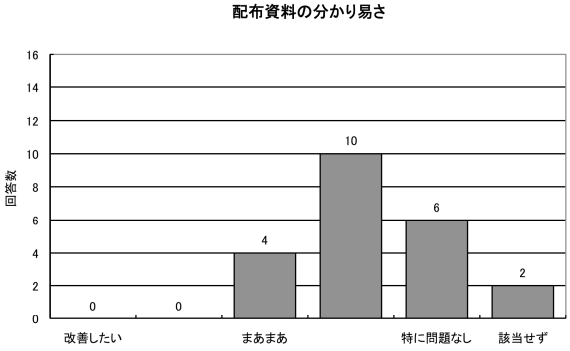
ＦＤ部会自己評価実施担当
表弘志

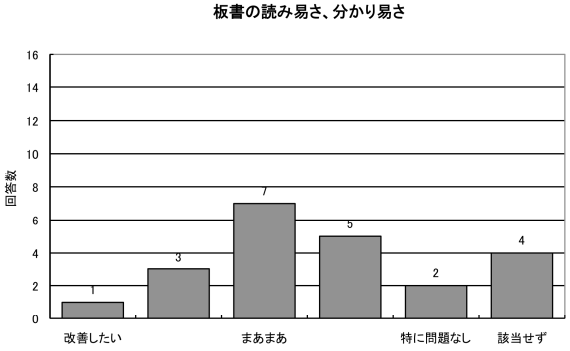
授業改善のための自己評価アンケート　（学部）

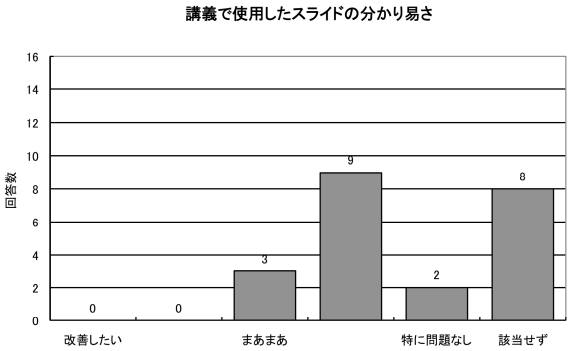
（平成２２年度前期分）提出者　19 名

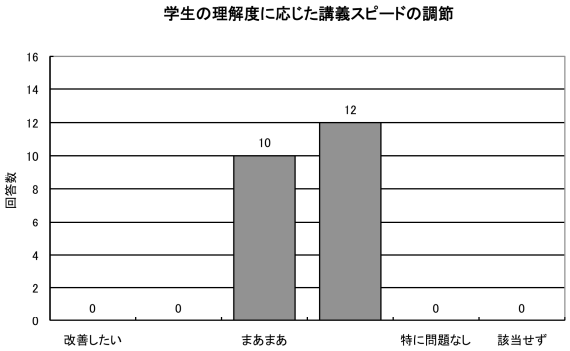
１　授業計画と講義内容の説明: 説明を行った。　（全員 19 名）

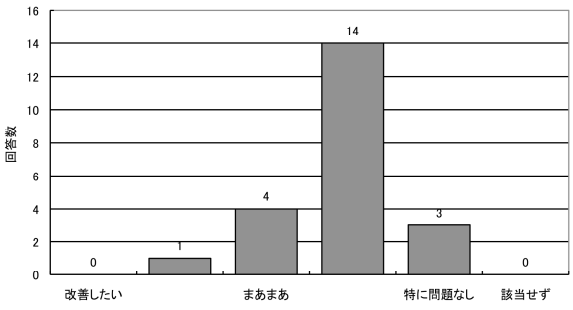
２　講義に対する自己評価











３　学生の理解度の把握方法

シャトルカードと試験。前回の軽い復習を書かせる。今日の講義の要点を書かせている。小テストの実施、直接の聞き取り。15 回の講義の中で、2 回を質問の時間にあてている。毎回の演習問題と授業関連事項のレポート。レポート提出と発表会。

４　講義に対する学生の実際の理解度

多くの教員は 70%程度の理解度と報告している。平年並みだが，試験対策として過去問しかしない学生が顕著に増加した。「大学での学習の仕方（学ぶことを学ぶ)」の再教育の重要性を痛感した。講義直後では期待していた程度の理解度であるが、後期の関連講義か始めるころには忘れられていることか多い。

５　学生の理解を深めるため、特に工夫された事項についてご記入ください。

化合物と受容体の結合を視覚的に理解させるために、X 線結晶構造解析データをわざわざ取得し、学生にわかりやすいように加工してプレゼンした。演習問題を多く取り入れ，板書による解答を解説した。教科書を中心に、板書を多くした講義とした。重要な語句や大切な文章はマークさせるようにした。SGD（スモールグループディスカッション）形式の授業を取り入れた。物理系の講義は学生にとって難しい場合が多いため、わかりやすく噛み砕いた自作の授業プリントを用いて講義を進めている。事前に予習し、記入させる配布物を作成した。演習問題の理解が低いときは，次の回で説明。全ての授業内容を授業の前にプリント配布し、前もって予習出来るようにした。前週行った授業内容の復習を 15 分程度毎回必ず行った。

６　試験での不正行為や答案の改ざんを防止するために、工夫された事項

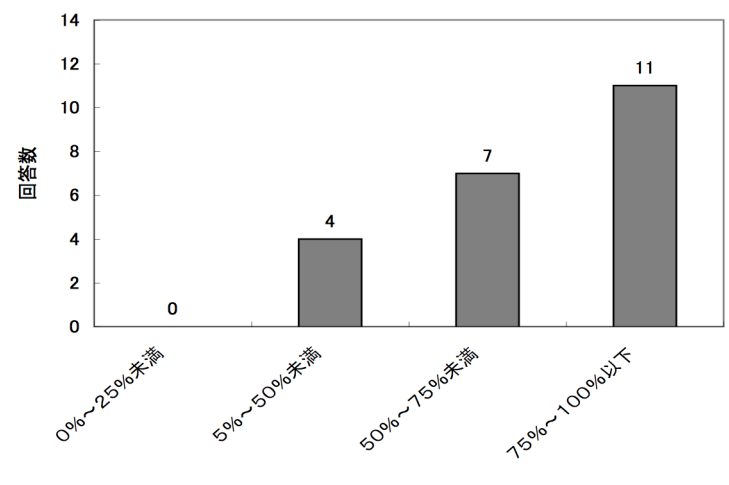
TA を二人配置した。試験時には、筆記用具、学生証、以外はバックに入れさせ、通路もしくは椅子の上にそのバックを置かした。露出したノートや紙切れなどは不正行為とみなすと警告した。また答案はコピーして、そのコピーを学生に返却した。参考資料持ち込み可の論述問題とし、知識の想起レベルてはなく、解釈や問題解決レベルの能力を把握する試験とした。試験の出来が気になったからではあるが、座ることなく徘徊し続けた。不正をしやすい〇X は避けて、記述を主体にした。

７　シラバスの記述内容（授業目標と授業計画）は、実際に授業を行った経験や学生の理解度を鑑みて、毎年見直しを行っていますか

はい　　17

いいえ　4

８　中間・期末試験における出題内容は，昨年のものとどれくらいの割合で変えましたか？



授業改善のための自己評価アンケート（大学院）

（平成２２年度前期分）

１　授業計画と講義: 説明を行ったと回答した数　（全員）

２　講義に対する学生の実際の理解度

多くの教員は７割程度の理解度と報告しています。内容の記憶の割合が最も高い（９０％）方法は，「人に教える」ことである。これを実践したこれを実践した本科目は，学習者の記憶度や理解度は極限まで高められたと自負する。平均して 60ー70%の理解であったと思う。大変興味を示し、熱心に聞いている学生と、興味をほとんど示さない学生（単位だけ取ればよいと考えている学生）の 2 極化していた。最新研究についての講義なので、理解度は高くない。７割程度であったと感じています。受講者数が少ないこともあり、ひとりひとりが調べた事項で不明な点についてじっくりと具体的に解説できたので理解度は良かったと感じている。

３　学生の理解度の把握方法

過去の国試問題の有機化学分野の問題を，ボランティアで参加した４年次生に理解できるように解説をし，質問に答える。このことによって，解説のためには予習は必修事項となり，質疑・応答の対策として，当該問題の関連事項を学習することになる。学生の理解度は，教示内容や質疑応答から判断できる。講義中に教員から学生へ質問し、理解度を確かめた。講義日ごとにアンケート（不明な点は質問として記載する）をとり、学生の理解度を確認した。直接の聞き取りを行いました。質問内容等からも判断できます。講義についてのレポート提出。講義の後、講義内容について、口頭で受講生全員に確認しました。講義内容に関連する文献を例示し、さらに詳しく学術的な問題点を考えさせ、それを発表させることにより理解度を把握し、同時に理解度を上げた。

４　学生の理解を深めるため、特に工夫された事項

講義のスピードアップとより広く理解できるように、全講義でスライドを用いて、講義した。スライドは数種類の本やインターネットを利用して作成した。図示できるものは出来る限り、模式図や写真等を利用して視覚的に印象に残るような工夫をしました。本年度は履修者が少なかったので、マンツーマンの形式、且つ、コーティング形式の指導を行い、理解不足と思われる点を時間をかけて説明した。スライドの構成、および途中で、５分間休憩を入れて、学生の集中力が維持されるように、工夫した。学生の理解度を高めるために、講義中でも質問しやすい環境づくりを行った。ひとりひとりの履修者に具体的な調査課題を与え、「製剤機能を評価する」という視点で論文の問題点を考えさせ、発表、教員との討議という形式で授業を行った。

講義のみではなく、実際の機器を稼動させ、データの取得を示して理解に勉めた。全スライドのプリントを配布。スライドの枚数を出来る限り少なくし、時間をかけて説明。具体的な論文のデータ（図表）を用いる。スライド等に資料写真などわかりやすく工夫。また、レジメも配布した。

４．ＦＤフォーラムについて

平成 22 年度開催分

第 16 回 FD フォーラム

7 月 14 日（水）

・新人教員のための講習会（杉本幸雄 FD 委員）

・大学院教育における FD を考える

司会：榎本秀一 FD 委員長

１）大学院博士前期課程入学試験のありかたについて

２）創薬科学科卒業生の薬剤師免許取得の際の単位取得制限

３）大学院博士、修士配属人数のあり方

第 17 回 FD フォーラム

11 月 25 日（木）

・大学院博士前期課程の講義数の適正化について（田中智之 FD 委員）

・「そんな（に）授業をしたいですか？」授業仕分けの進捗状況

司会：榎本秀一 FD 委員長

（付記）「薬学研究のフロンティア」の実施

平成 22 年度後期に両学科の２年生を対象に集中講義「薬学教育のフロンティア」が開講された。本講義は、下記の項目について各教員が概説するオムニバス講義であり、学生と研究室のマッチングを適正化するための試みである。シャトルカードを利用して参加学生の感想、意見を自由に記述させ、それらは全て講義担当教員が閲覧することにより授業評価を行った。

１．担当教員の専門とする研究概要とミッション
２．担当教員の研究成果とその国内外での位置付け
３．担当教員の代表的な研究成果，将来展望，
４．研究室の他教員や国内外の共同研究状況
５．研究室の面積、装備、研究費の状況
６．現在所属する学生の数、学科別、研究テーマ
７．研究室のコアタイム、ゼミ、学会発表、年中行事の状況
８．薬学科、創薬科学科のそれぞれへの注意、配慮など
９．研究室配属学生への注意事項、守ってほしいこと（義務など）
１０．研究室配属学生が博士前期、後期課程中に退職する場合の措置、対策

学生評価のまとめ：参加者のほぼ全員が本講義の意義を認識し、高い評価を与えていた。初回の講義ということもあって教員側の対応には温度差があり、担当教員による評価の差が大きく表れた。
良かった点：研究者の心構え、研究室の選択の基準がよく理解できた。教員の研究に対する熱意や、目標を知ることができた。研究生活のイメージを持つことができた。難しい研究内容を易しく解説してもらえた。
悪かった点：プレゼンテーションの拙い教員がいた。２年生対象であるにも関わらず、高度な研究内容をそのまま紹介されるのは厳しい。

資料 1

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部ＦＤ部会

● 前学期の主な開講科目は裏面に記述しています。これらの科目以外でも該当科目があれば記述してください。
● 本アンケートは，学期末に行うマークシートでの数値アンケートとは以下の点で異なります。
①完全無記名;②記述欄有り;③科目毎でなく学生毎;④成績開示後に実施

（1） 学科をチェックしてください。

【学科】○ 薬学科　　○ 創薬科学科　　○ 総合薬学科　　○ その他

（2）**前学期で受講した全授業科目の中で，最も満足できた授業科目を０～３科目選び，それぞれの理由について，チェック（複数可）あるいは記述してください。**

科目名			
理由	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）	☐ スライドがよかった ☐ 配布資料がよかった ☐ 重要点が強調されていた ☐ 将来必要な知識が修得できた ☐ 授業の進め方がよかった ☐ 担当教員に熱意があった ☐ その他（自由記述）

（2） **前学期で受講した全授業科目の中で，最も改善すべきと思う授業科目を０～３科目選び，もし，あなたがこの授業の担当者ならば，どこをどのように改善するかを記述してください。**

科目名			
改善箇所 改善方法			

ご協力ありがとうございました。

資料 2

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部ＦＤ部会

平成２１年度後期開講科目について

満足できた授業科目（当該年次全科目の４学年全体）の主な理由

- ▲ 重要点が強調されていた（48.6%）
- ▲ 授業の進め方がよかった（44.5%）
- ▲ 配布資料がよかった（38.3%）
- ▲ 将来必要な知識が修得できた（37.4%）
- ▲ 担当教員に熱意があった（34.6%）
- ▲ スライドがよかった（23.2%）

改善すべきと思う授業科目（当該年次全科目の４学年全体）の主な理由

- ▼ 重要点がわからなかった（21.5%）
- ▼ 試験問題が講義内容全体を反映していなかった（15.4%）
- ▼ プリントがわかりにくかった(13.8%)
- ▼ 講義全体がわかりにくかった（10.8%）
- ▼ 教科書・プリント・スライドを読むだけだった（9.2%）

満足できた授業科目（満足できた回答数／履修者数で算出）

１年次	２年次	３年次	４年次
生理学	生物物理化学	薬物治療投与設計序論	有機化学演習Ⅰ
医薬品開発序論Ⅰ	製剤学	創薬科学英語	診断治療学
有機化学Ⅱ	漢方処方学	薬効解析学Ⅲ	実務実習事前教育
医薬品開発序論Ⅱ	生物化学Ⅴ	有機合成反応論	
生物化学Ⅱ	コンピューター化学	国際医療保健学	
微生物学	癌の生物学	コミュニケーション入門Ⅱ	
生薬学Ⅰ	医薬品構造解析学	薬事法規	

本アンケートの詳細は、http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/com/FD/check/H21Lst_pharm.pdf　をご覧ください（薬学部ホームページ → 部内限定 →　・授業評価 → 学部（薬学部版） → 2009L）。

資料 3

岡山大学薬学部授業改善戦略

学生による授業評価アンケート

薬学部ＦＤ部会

平成２２年度前期開講科目について

満足できた授業科目（当該年次全科目の４学年全体）の主な理由

- ▲ 授業の進め方がよかった（56.7%）
- ▲ 将来必要な知識が修得できた（47.0%）
- ▲ 重要点が強調されていた（43.8%）
- ▲ 担当教員に熱意があった（40.1%）
- ▲ 配布資料がよかった（32.9%）
- ▲ スライドがよかった（18.7%）

改善すべきと思う授業科目（当該年次全科目の４学年全体）の主な理由

- ▼ 重要点がわかりにくかった（10.9%）
- ▼ 評価方法がわかりにくかった（5.6%）
- ▼ プリントがわかりにくかった（5.3%）
- ▼ 授業の形式がよくなかった（4.6%）
- ▼ 全体的にわかりにくかった（4.6%）
- ▼ 試験問題が講義の内容をあまり反映していなかった（4.2%）

満足できた授業科目（満足できた回答数／履修者数で算出）

１年次	２年次	３年次	４年次
有機化学Ⅰ	薬効解析学Ⅰ	薬剤師倫理学	臨床薬学
コミュニケーション入門Ⅰ	人体解剖学	癌薬物治療学	漢方処方応用学
SGD入門	生物統計学	分子細胞生物学	薬物動態学
物理化学	生物化学Ⅲ	機能性天然素材学	病院薬学
薬用植物学	薬剤学	生物薬剤学	コミュニティファーマシー
無機薬化学	生薬学Ⅱ	ゲノム創薬学	薬物治療学Ⅰ

本アンケートの詳細は、http://pharm.okayama-u.ac.jp/com/FD/check/H22Fst_pharm.pdf をご覧ください（薬学部ホームページ → 学部内専用ページ → ・授業評価 → 学部（薬学部版） → 2010F）。

資料 3